



みんなの力でみんなの幸せ

s a w a r a b i

さわらび

2



認知症病棟の課題 これから

◆兼山まつば病院 院長 高橋 三津雄

8



「秋陽展」優秀作品 誌上作品展

2009
vol.439

11





医学講話

認知症病棟の課題 これから

蓮田よつば病院 院長

高橋 三津雄

このような疾患は機能性疾患と呼ばれます。

(一) 使用する薬物は少なければ少ないほど良い

認知症を呈する疾患の代表であるアルツハイマー病では、経過中に側頭葉の内側にある海馬が萎縮してきます。これは頭部CTやMRIで比較的容易に分かる変化です。これが記憶や見当識の障害を引き起こします。このように、身体の一部に特徴的な形態の変化を来す疾患を器質性疾患と呼びます。これに対して、てんかん、片頭痛あるいは統合失調症などは、分子レベルや遺伝子レベルでは異常がある場合もありますが、一般的には形態の異常を伴っていません。

機能性疾患に対する薬物療法と器質性疾患に対する薬物療法とは、

大きな違いがあります。機能性疾患では、ある特定のシステムの機能が、正常レベルよりもはるかに亢進していることがほとんどです。ですから、これらに対する薬物療法では、この亢進した機能を強力に抑制して、正常レベルまで引き戻すことが行われます。これとは反対に器質性疾患では、いくつかのシステムが組み合わさって、正常レベル以下に低下していることがほとんどなのです。アルツハイマー病などの認知症は器質性疾患ですから、機能性疾患に対するような薬物療法を行うと、低下してしまった機能のレベルに、他のすべ

での正常レベルの機能が落ち込んでしまったような、全体として極めて抑制された、認知機能、精神状態になりやすいのです。運動機能障害も必発で、構音・嚥下障害、歩行障害、転倒などが高頻度に出現します。できれば、落ちてしまった機能のレベルを持ち上げた方が、その方の生活の質は向上するのです。

認知症の方に使われる薬物は、簡単に言ってしまうえば元気薬となだめ薬の2種類です。元気薬は、ある機能のレベルを上げる薬、なだめ薬は、おおむね、なだめ薬を、器質性疾患では元気薬を主になだめ薬も



併用するというのが望ましい薬物療法と考えられます。

認知症病棟に入院される方々は、実にたくさん薬物を使用されています。入院後、薬物の適正使用に心がける必要があります。使用する薬物は、少なければ少ないほどよく、できれば元気薬だけにすべきです。

(二) 行動・思考の背景に潜む、動機、原因に基づいた対処を心がける

認知症では、物忘れなどのありふれた症状以外に厄介なものとして、様々な行動・思考の異常が挙げられます。周囲から見れば何の意味も目的もないような動作の繰り返しや、危険を伴う行為、常識的には考えられない思考の内容などが、家族などの介護者を日夜悩ませ、疲労させ、やがて、認知症の方々を家族から引き離してしまう要因になります。また、一般診療においても認知症の方



から隔絶し、人目につかないところで療養するということがないようにしなければなりません。

(三) 私たちの患者さんのゴールはいったいどこに？

は、より多くのこまかな看護が必要のために、敬遠される傾向にあります。

認知症診療では、認知症を呈する方々の不可解な行動の背景に、身体的、精神的な要因が隠されていないか十分に観察し、ただ単に表面的な症状のコントロール（過剰な薬物投与ないしは身体拘束などによる封じ込め）によって、真実の姿がますます見えなくなる状況を極力避けていく努力が必要です。

このことにより、認知症の方が、いつの間にか、一般社会や一般医療

社会の第一線で働いていた方が、

ある日突然、脳梗塞で倒れた場合、治療のゴールは、まずは日常生活動作の回復から家庭生活、理想的には職場復帰と明確です。認知症を有し、病院を受診され入院される方のゴールはいったいどのようなように設定すれば良いのでしょうか。

一定の社会的責務を終えられた方が大部分である認知症の患者さんでは、効率至上主義に照らせば、社会への貢献度はそれほど高くはないといわざるを得ません。また、生命予後という観点からも決して樂觀できません。動物の世界で言えば、年若いて傷つき群について行けない状況にも似ています。自然界の厳しいルー

ルに従えば、これらの動物は強い肉食動物の標的になるしかありません。私たち、人間の世界ではどうでしょうか。おそらく、野生動物の世界とは違う、もっとやわらかい、優しい価値基準を設定する必要があるのではないのでしょうか。

患者さんに接するすべての医療スタッフは、このゴールについて毎日考えながら行動しなければなりません。その経過で、他の施設の模倣ではない、自分たち独自の行動規範が成立することが理想です。

(四) 家族の方たちと共に
良い病院環境の整備を！

先に挙げました、医療職員の目標は、患者様およびご家族の方々のご意見、ご希望を反映して初めて実現するものです。一方的な要求と、それを実行したかどうかという形式的な報告のスタイルを打破して、職員と患者様・ご家族が協力してより良

い環境作りに適進するような双方向性の関係を築かなければなりません。そのために、すぐにご家族のご意見を反映できるシステムの導入、さらには家族会などでの意見交換を積極的に行っていく必要があります。失敗を恐れずに、出来るだけ積極的な治療を実践していくことが肝要です。寝たきりになるよりは、転んでも良から立って歩く練習をする、よく喃んでしっかり食べる、笑ったり泣いたり、時には喧嘩する位の元気を示して欲しい、というのが理想的です。



長寿医学研究所

先進医療担当 副院長

(日本癌学会名誉会員)

岡山 秀親

【混合診療について】

日本が富国強兵に向かって暴走した時、兵士になるべき子供たちが病死しては兵士の増強が出来ないことを危惧した。そこで、乳幼児が医療を受けて病死を免れさせるために貧民農家の子供もお金を払わなくても医療を受けられるように削ったのが国民保険制度の始まりである。医療費を払えない貧民(当時は小作人あるいは水飲み百姓と云われ、学校に弁当も持ってこれない家庭がたぐさんありました)でも、最低限の医療を受けて兵卒に育つようにした。医師会は自由診療で大きな収益を得ていたので、保険制度は国へのサービ

スとして受け入れた。医療費を払えない貧民でも治療を受けて子供が病死しないようにするのが目的でもあったので、高価な薬剤費を払える家庭には保険を適用しないと、主旨によって混合診療は禁止された。敗戦で全国民が貧民になった時に国民皆保険となったが、この時も貧民救済の主旨が残り、貧民が居なくなった今でも混合診療の禁止が放置されたままになっている。政治家と官僚の怠慢の結果である。

福祉村病院の長寿医学研究所では、がん患者の免疫療法として、活性Tリンパ球療法(LAK-T療法・Lymphokine Activated Killer T Cell 療法)を実施しています。患者さんのリンパ球を無菌的に大量培養するので、培養液、試薬、培養器具などに多額の経費がかかります。必ず効果があるわけではないので治療費を頂くのは心情的に難しいので、研究協力費として、1クールの実費経費で84万円のご協力を頂いています。この治療法を先進医療として登録すれば診療費を頂いても混合診療にな

らないと認める制度があります。福祉村病院も先進医療の登録申請をしましたが、治療実績がないことで受理してもらえませんでした。豊橋市民病院など、他所の病院で治療を受けているがん患者さんを対象にしてきていますので、福祉村病院の治療実績としては認めていただけなかったわけです。

先進医療の登録を受け付けてもらうためには、がん患者さんに入院して頂いて福祉村病院での治療実績を積み上げる必要があるわけです。手術を受けた後の患者さんの治療を引き受ける病院システムを検討してみることが必要のように思います。特に、LAK-T療法はがんの再発防止に効果が認められるエビデンスが蓄積してきているので、手術後の再発予防を口指した患者さんを受け入れるシステムが出来れば新しい福祉村の特徴の一つが加わることになると思います。

抗がん剤の名前から、がん細胞を直接攻撃する特別な薬剤と誤解して治療に当たっている医師が未だに多い

ように感じます。抗がん剤の開発ステップを熟知していれば、がん細胞を直接殺しているのではなく、生体の防御反応とがん細胞の関係を牛体防護側に有利にする作用が根底にあることは明らかです。私の長年の主張に沿った理解が深まり、抗がん剤の使用法も低用量の方が効果が高いことも認知されるようになってきています。抗がん剤の作用は、がん細胞を弱らせて、免疫反応を受け易くする作用の他に、免疫反応を抑制するシステム(免疫抑制性Tリンパ球)を抑える効果も大きいことが知られ始めています。



防災への取り組み

…地域の皆様と一緒に

豊橋市弥生町の住宅地には、さわらび会のグループホーム・ケアホームが点在しています。ホームでは、大規模震災等に備え日頃から地域の皆様との連携をとっています。

十月十一・十二日に弥生町で行われた「やよい祭」に参加し、さわらびホームのメンバー二名が地域の方と一緒に「防災体操『ボーサイズ』」の発表をしました。防災体操は、「トもしもしかめよ」の音楽に合わせて、ダンスを通じて防災意識を高めて、災害発生時の初期動作や注意点を身



●やよい祭で、防災エクササイズを発表しました。

に付けようというものです。

参加した利用者の方は、最初は歌詞と振り付けが合わず苦戦していましたが、練習を重ねる内に動作の意味が理解でき自然と体が動くようになりました。そして、日常の暮らしの中でも、「火の始末した？」など歌詞にあることが会話の中に出るようになり、身に付いていることを実感しました。

弥生町は自主防災組織として豊橋市内でも特に力を入れて活動している町内です。毎月開催される防災委員会、年に一度の総合防災訓練、防災だよりの発行など、啓蒙・啓発活動が積極的に行われています。さわらびホーム・第2福祉コンビニも二年前から防災委員会に出席させていただき防災活動に参加しています。こうした活動で、これまで以上に近所の方々と顔なじみになれば、災害時の一番の備えになったのではないかと感じました。

今後も安心・安全な暮らしを提供する為にも、弥生町住民として参加していきたいです。

(久保川)

感染症防止にむけて

◆福祉村病院 小橋修院長の講演

新型インフルエンザの感染拡大報道が連日なされている中、新型インフルエンザへの正しい理解と対応法が大変に重要となっています。

福祉村病院では院長 小橋修先生がこの秋、岡山での全国老人福祉施設協議会看護職員研修、北海道での十勝老人福祉施設協議会研修会など多方面より講演依頼を頂き「施設における感染症対策」というテーマで各地で講演されました。

(和田)



めざせ介護福祉士!

◆10月10日 サンビレッジ国際医療福祉専門学校にて

今年の4月に入学した1年生40名に「障害の理解」について当事者の立場、そして非常勤講師として話をさせていただきました。

将来、介護福祉士として働く希望を強く持っていただけのように、施設の現状を伝えながら「やりがいのある仕事」と思えるように講義を進めさせていただきました。

生徒からの質問内容も現場や実習の日標の持ち方などが寄せられ、関心の高さが伺える講義となりました。

(田中)



さわらび賞 福祉作文 コンクール 第1回

さわらび会では今年度、小学校、中学校の皆様を対象に福祉作文コンクールを開催させて頂きました。応募総数は百二十五点と大変多数のご応募を頂き、この誌面上にて応募頂いた皆様にお礼を申し上げたいと思います。本当にありがとうございます。

そして厳正なる審査により左記の皆様が受賞されました。

◆最優秀賞 渡邊 伽

(高師小学校 3年生)

◆優秀賞 奥田 実佑

(吉田方小学校5年生)

北谷 瑞樹

(高豊中学校 1年生)

◆入 選

鈴木 絢子

小松 大輝

菅沼 舞央

(磯部小学校 5年生)

林 大貴

石河 里彩

(吉田方小学校5年生)

加治屋優奈

(五並中学校 1年生)

皆様の作品を代表し最優秀賞作品を掲載させて頂きます。また福祉作文コンクールの際、お子様だけではなくお母様の貴重なお気持ちもさわらび会に頂きましたので併せてご紹介させて頂きます。



● 渡邊伽さんと田中力さん

◆最優秀賞作品

「山中 力さんの話しを聞いて」

高師小学校3年生 渡邊 伽

わたしは、夏休み親子ふくし体けんこうざに今までに、二回さんかしています。毎年夏休みに入る前学校で、ふくし体けんこうざの手紙がくるとワクワクします。今回は、どんな体けんが出来るかな？しようがい

があると、おしゃべりができるかな？と、とても楽しみです。

ふくし村について、たまもそうのふくしせつ長の田中力さんの話しが、とても心にのこりました。学生の時に、事ここにあつて車イス生活になつた話しをしてくれました。もし、わたしが今同じようになつたら、かなしくてかなしくて毎日ないて生活してしまうと思います。でも、田中力さんは、明るくとても楽しそうに話しをしてくれてビックリしました。けっこんもして、子どももいてもっとビックリしました。

わたしは、今まで車イスで生活している人は、「かわいそうだなー。」と思つていたけれど、田中力さんの話しを聞いて、「かわいそうだなー」って思つている、わたしがはずかしくなりました。きつと、みんななりたくて車イス生活になつたわけではないと思うし、なつた人が一番つらいと思ひました。ふくし体けんこうざで、しるがねそうに行つて、ハドマーや起立台を体けんしました。こんなきかいがあつた事を、はじめて知りま

した。今までは、自分で全部できた事が人に手つだつて、もらわなければ何も出来なくなつたり、テレビでよく見るリハビリも、すごく大変そうに思ひました。でも、車イスの人はそれを全部のりこえて、田中力さんのように笑顔で元気に、わたしたちに話しが出来ると思ひました。

友だちとあそんでいる時に、車イスの人がいたりして、友だちがもし前のわたしと同じ気持ちでいたとしたら、「かわいそうじゃないんだよ、ふくし村の田中力さんの話しをきいたらちがう事がわかるよ。」と話しをしてあげようと思ひました。

もつともつとみんながふくし体けんこうざにさんかして、車イスの人やしようがいのある人とふれあえたらいいと思ひました。

来年も、ふくし体けんこうざがあつたら、ぜつたい行きたいと思ひます。もちろん、友だちもいっぱいさそつて行きたいと思ひます。

田中力さん、ふくし村のみなさん、お体にきをつけてください。

●福祉作文コンクール特別寄稿

「夏休み親子福祉体験に参加して」

小見門みよ子

初めて体験に参加させて頂き、今すごく感動していて「行ってよかったね。」と、今日一日の事を子供達と振り返りながら何度も同じ事を言っている私です。何がそんなによかつたか。一番は、障害者の人たちが、

きさくに寄り添い声をかけてくれた事。これはすごく新鮮な体験でした。一般ではこんなことはまずありませんが、ここではどこに行っても、私

がイスに腰をかけると必ず誰かが近くに来て声をかけてくれました。それが嬉しかったし楽しかったです。ふれあいとしては、卓球が良かったです。卓球台の前に座ると隣の車いすのおじいさんが、ほとんど雨のな

い口をニコツとあげ、喜んでくれました。私は何度も卓球をしたことがあります。私は何だか卓球をしたことがありませんが、こんなにほのぼのとした楽しい卓球は初めてでした。容赦なく力の限りスマッシュ？をする男

性も皆を笑かせてくれたし、私はチー

ムプレーを心がけ、少ししか手の動かない人にパスをして相手コートに球をおくる。そんな楽しみ方をしていました。今、会ったばかりの人たちなのに、まるで前からの知り合いのように「チーム名どうする？」と一緒に考えた。いい人達だなーと、とても居心地のよさを感じました。

また、どの施設もそうですが、職員の方々が優しい。私達にも障害者の人に対してでもまるで家族をみるように暖かいなーと。若い人も多く、すばらしいなと思いました。大変な仕事でしょうが明るく、楽しく、優しく、とてもいい雰囲気ですばらしい人間性の人たちばかりで、ただ頭の下がる思いでした。もっともそんな心の優しい人でなければ、こういう仕事はできないでしょう。

少し私のことを書かせて下さい。私はもともと障害者の人と接するのが好きでした。さかのぼること小学生時代、田舎の学校でしたが、障害者クラスが一つありました。私はその子達のことごとく可愛くて、放課になると友達を誘って教室へ遊び

に行つたし、掃除はそのクラスの部屋を担当。「たまには違う子に担当変わるか。」と先生に言われましたが、おとなしかった？私はそれだけは譲ることができず「やりたい。」と先生にお願いしていました。本当にそのクラスの子達が可愛くて、その子達に掃除をさせるのに、自分なりに工夫しながらやっていたので、他の子には任せられないと。ある日先生が掃除の様子を見て来て、その様子を見て、黙って帰っていきま

した。後で私がどうしてもやりたいといった意味がわかったというように、考えてやっとするようだな、感心したぞ。」とほめてくれました。そんな私でしたが、いつしかその心が無くなってしまいました。それにはきっかけがありました。ずっと田舎で過ごした私が、高校は町の学校へ。ある時友達と駅に行くと、ダウン症の女の子がいました。「可愛いな。」と思った私は、何回か会ううち仲良しになりました。ある日その子とジャンケンをして楽しく遊んでいた時、ふとみると友達が私から

はなれているのに気づきました。周りをみるとそこには白い目がいっぱい。ショックでした。私はその子とのジャンケンをやめ友達の方へ戻ると、それ以来その子と会うことも避けるようになり、そして障害者の人との接触を封印してきたように思います。そんな時この体験のチラシを見つければ迷わず申し込みました。「行ってよかった。」やっぱり私は好きです。私が座ると、隣にイスをもってきた50才くらいの男性、やたら囁口を気にして何度も同じことを聞くのが可愛かった。職員さんにストリートにあまえる人が可愛かった。一生懸命話してくれる人、ニコツと笑顔をくれる人、みなさん純心で、ストリートで、心がほんわかあたたかくなり、もっともっといたかった。

秋に文化祭があるということで、まずは非行かせてもらいたいです。楽しませてもらい、有り難うございました。子供以上に私がとても心豊か

になった良い一日を過ごさせて頂きました。

ました。

深まる秋を 感じて

優秀作品
秋陽展
誌上作品展



● 絵画部門
「Douga」**特選**
倉田 貴司さん(しろがね利用者)



● 手工芸部門
「花の刺繍」**特選**
辻 勇二さん(明日香利用者)



● 書道部門
「五所平之助 詩」**特選**
藤田 寅男さん(カサデローザ利用者)



理事長の審査風景

- 絵画部門
 - 特選 倉田貴司 (しろがね利用者)
 - 入選 助井順一 (あかね荘ケアホーム利用者)
 - 入選 赤川三好 (福祉村病院家族)
- 書道部門
 - 特選 藤田寅男 (カリデローザ利用者)
 - 入選 夏目美好 (さむらび荘利用者)
 - 入選 杉山カナコ (第二さむらび荘利用者)
 - 入選 壁谷日向 (明日香職員家族)
- 写真部門
 - 特選 河合保美 (珠露荘職員)
 - 入選 山本義勝 (若菜荘利用者)
 - 入選 伊藤義時 (福祉村病院職員)
- 手工芸部門
 - 特選 辻 勇二 (明日香利用者)
 - 入選 吉田貞子 (カリデローザ家族)
 - 入選 佐藤仁衣子 (あかね荘職員)
 - 入選 佐々あさの (若菜荘利用者)
- 陶芸部門
 - 特選 安立由布子 (若菜荘職員)
 - 入選 あかね荘共同作品 (あかね荘利用者)



● 絵画部門 **入選**
 「蒸風」
 赤川 三好さん(福祉村病院家族)



● 手工芸部門 **入選**
 「菊の香」
 佐藤 仁衣子さん(あかね荘職員)



● 写真部門 **入選**
 「村社の朝」
 山本 義勝さん(若菜荘利用者)



● 陶芸部門 **特選**
 「たこ」
 安立 由布子さん(若菜荘職員)



● 写真部門 **入選**
 「スマイル」
 伊藤 義時さん(福祉村病院職員)



● 絵画部門 **入選**
 「化石」
 駒井 順一さん(あかね荘ケアホーム利用者)



● 陶芸部門 **入選**
 「星のひかり」
 あかね荘共同作品(あかね荘利用者)

夏
日
美
好

美

● 書道部門 **入選**
 「美」
 夏目 美好さん(さわらび荘利用者)

小
五
年
生
壁
谷
日
向

**赤
と
ん
ぼ
と**

● 書道部門 **入選**
 「赤とんぼ」
 壁谷 日向さん(明日香職員家族)

河
 杉
山

● 書道部門 **入選**
 「河」
 杉山 カナコさん(第二さわらび荘利用者)

※紙面の関係上、すべての作品を紹介できないことを深くお詫び申し上げます。

山 本 左 近



「左近選手、実り多い秋へ」

MASTERS最終戦の見事な走りや鈴鹿サーキットでのイベント参加など
様々な活躍を見せる左近選手。まさに実り多い秋を迎えている。

鈴鹿サーキットを知る
貴重な日本人F1ドライバ―

左近選手にとって鈴鹿サーキットはドライバ―人生の原点といえる場所である。少年のころ初めて鈴鹿でF1を見て、F1ドライバ―になることを心に誓った。小学校5年生も終わる春休みに、鈴鹿カートレーシングスクールの刃の刃に入校してカートを始めた。中部地区チャンピオン、高校2年生で全日本カートF1Aクラスシリーズチャンピオンに。高校3年で鈴鹿レーシングスクール(刃の刃)に入校。すぐに頭角を現し、スカラシップ獲得、只一人全日本F3にステップアップ。ここで非凡さを見せ、翌年には海外へと活動の場を世界に広げた。2004年に日本に戻り、フォーミュラ日本、スーパーGTですばらしい成績を残した。

そして2005年、ついに鈴鹿サーキットで日本人最年少F1ドライバ―としてF1デビューをする。ジョーダン・グランプリのサードドライバ―として、レギュラードライバ―よりも速く安定した走りを見せた。

さらにこの鈴鹿での走りが評価され、2006年には鈴木亜久里氏の率いるスーパーアグリF1チームからレギュラードライバ―として参戦した。この年は鈴鹿サーキットでのF1開催20周年の記念すべきレースで、過去最高額の16万人以上の観衆が詰めかけた。

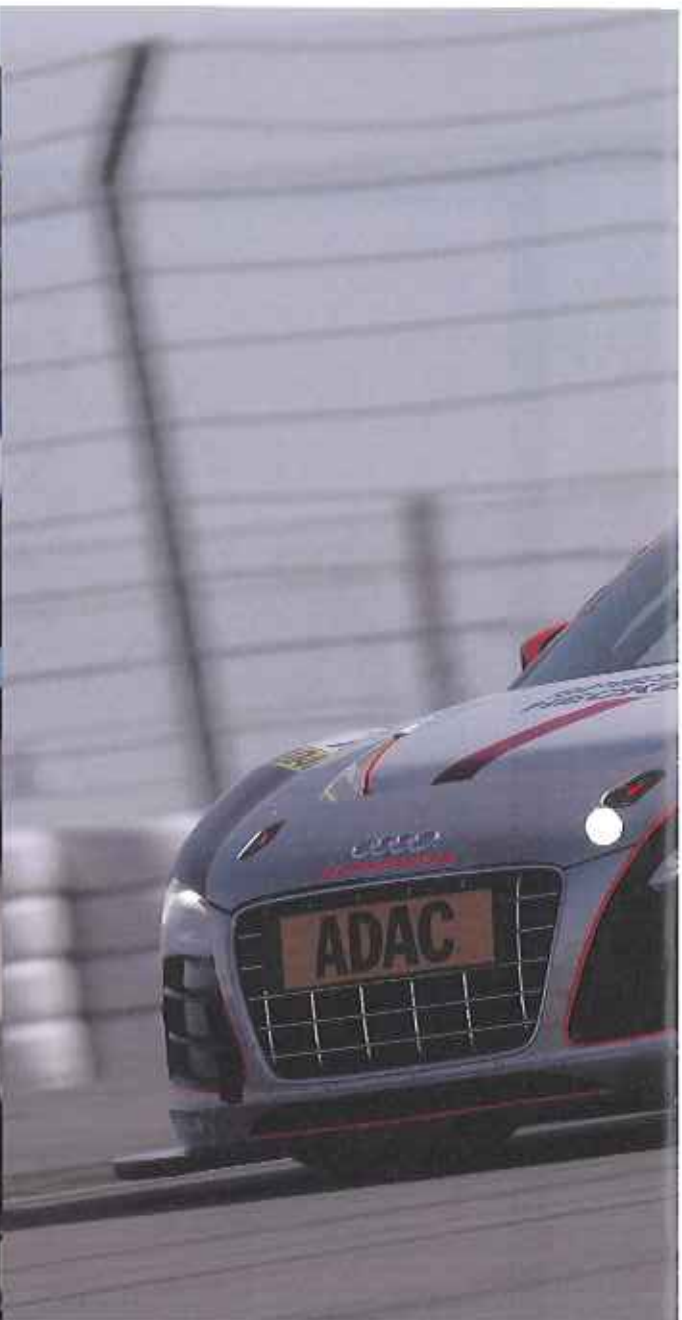
夢は現実になり、自らの原点の鈴鹿サーキットで左近選手は見事な走りファンを魅了した。

左近選手、鈴鹿で語る

今年の日本グランプリでは多くのイベントが開催されたが、鈴鹿を知り尽くしたF1レーサーとして左近選手はトークショーをはじめ数々のイベントに登場した。中嶋悟、片山右京、中野信治、佐藤琢磨などと共に歴代の日本人F1レーサーの一人として出席し、「3年ぶりの鈴鹿がすごく楽しみ。トヨタもスペシャル仕様で臨んでいるみたいだし、日本勢の活躍にも期待したいね。」と他の出席者と共に熱く語っていた。



写真提供・Maxi氏



左近選手、新時代の F1グランプリを語る

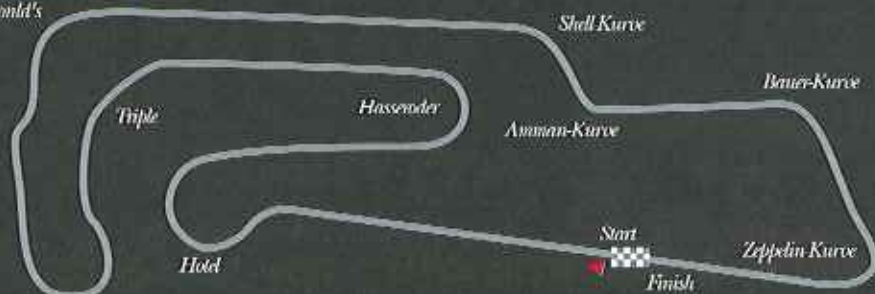
左近選手の国内での活動は鈴鹿にとどまらず都心などでも精力的に行われた。特に原宿駅で行われた「FM NACK 5 F1 EXPERIENCE」公開録音のトークショーでは大変な盛り上がりを見せた。そのイベントでは、モータージャーナリストの川井一仁氏とともに、「新時代のF1グランプリを占う」というテーマを大いに語った。F1グランプリで数々のレースを繰り広げた左近選手だからこそその視点で2009年のF1グランプリ総括や来年のF1についての分析を繰り広げた。

レースだけにとどまらず、トークショーなどのイベントにおいても才能を発揮し、観客を魅了する左近選手。今後も、応援する我々を様々な形で期待に応えてくれる活躍を繰り広げる左近選手に大いに注目だ！

(鳥居)

Oschersleben

Mc Donald's



【オッシャースレーベン】

(Motorsport Arena Oschersleben, モートルシュボルト・アリーナ・オッシャースレーベン)

ドイツ、マグデブルク近郊のオッシャースレーベンにあるサーキット。

ニュルブルクリンク、ホッケンハイムリンクに次ぐドイツ第3の常設サーキットとして1997年に完成。一周13.667m、ドイツツーリングカー選手権(DTM)の開催地のひとつ。



俳句浪漫

直筆の書で 季節を彩る

ジューゲム協理・東京大学客員研究員 金井 芳之



短か夜も

過ぎてぞさんま

肥えにけり

最近の地球温暖化で、日本特有の四季のリズムが怪しくなっている。今夏も猛暑が比較的長期化すると予報されたが、秋の到来は意外に早かった。暑さと日中の長さは勿論無関係であるが、暑ければ睡眠時間は自ずと短くなり、所謂「短夜」に拍車を掛ける。「短夜」が過ぎると直ぐに秋、秋はさんまだ。今年は、秋刀魚は身が大きく脂がのり、「日黒のさんま」祭りも大勢の人で例年になく賑わった。地球温暖化で今までの自然の流れが歪曲されるのが心配だ。肥えて脂ののったさんまは旨い…。

四季に感謝の昨今である。

さわらび大学休講のお知らせ

さわらび大学は、新型インフルエンザ等感染症予防のため当面、休講とさせていただきます。

なお、再開のお知らせは、今後さわらび会機関誌及びホームページにてご連絡させていただきます。

講義内容へのご意見・ご要望がございましたら、下記までお申し付けください。

●お問い合わせ・受講申し込み 軽費老人ホーム若葉荘
☎(0532)48-1138 FAX(0532)48 2365

第28回

さわらび文化祭の中止について

10月24日(土)実施予定の第28回さわらび文化祭につきましては新型インフルエンザの感染拡大防止のため中止とさせて頂きました。さわらび文化祭を楽しみにして下さった多くの皆様には誠に申し訳なく、また関係各位におかれましては大変ご迷惑をおかけしたことを紙面上でございしますが心よりお詫びさせて頂きたいと思っております。

また、今後ともさわらび会へのご支援、ご協力のほどよろしくお願い致します。



宿泊していた「かんばの宿」から第四十九番
西林山浄土寺へ向かう。歩き遍路たちの朝は早
く、夜明けとともに巡礼を始める。しかし、私
たちは高齢者と小児と一緒に車で移動してい
るので、宿を出るのは午前九時頃となる。
浄土寺の駐車場から仁上門へ歩く。十数段
の石段を上がると視界が開けた。その先に唐様
式の本堂が見える。背後には竹林があり、本瓦
葺きの屋根を持つ建物は荘厳なたたずまいだ。
一四八四年の建築で重要文化財となっている。
子供たちは本堂に向かって走っていった。子
供たちは本堂の前で、頭に黄色いタオルを巻い
た歩き遍路装束の二十歳前後の男性と何かしゃ
べっている様子だ。行く
寺ごとに、いつもこの青
年に出会うことは、もう
偶然ではなく当然のこと
のように思っていた。
この浄土寺は七五〇年
頃に孝謙天皇の勅願によ
り恵明上人が開基した。



九六〇年頃には空也上人
が滞在した。上人は平安
中期に活躍した「踊念仏」
の開祖であり、阿弥陀聖
とも市聖とも呼ばれた。
空也上人がこの地を去る
時、村民の願いで自像を
刻んだ。口から針金が出
ていて、その上に小さい仏像が六体並んで立っ
ている空也像は重要文化財として現存している。
「南無阿弥陀仏」の六文字が空也の口から発せら
れると、その言葉は仏に変わるという意味らしい。
本堂の前でロウソクと線香の準備をしている
と子供たちが戻ってきた。「やっぱり、あのお
にいさんは知り合いだよ」と中二の娘。「どう
して」と私。「あいさつしたら私に向かって、「彩
ちゃんだね、大きくなったね、って、言っていた
よ。」「私の名前も知っていたよ」と小四の娘。
「あなたが恭ちゃんだな。がんばれよ。」って
言っていたよ。」
そんなことは信じがたいが、実は本当に知り
合いなのだろうか、すぐに周囲を見渡したが、
その青年はどこにもいなかった。この寺を最
後に、この後この青年に出会うことは一度もな
かった。
「昔に近所に住んでいた人かもね」と私。「よ
く知っている人かもね」と母。その時は何気な
い普段の会話に思えた。



Vol. 22
relay column
**さわらび会
のわ**
ジュークム石認師長
高瀬 清美
中日新聞に筆談
の風景というコラムが
連載されています。子供の
頃から親しんだ童謡の誕生のいきさつや上ピソ
ド、作家達の思い、そしてそこにまつわる謎や
秘密が分かりやすい解説と情感あふれる切り絵
で紹介されています。筆談はもともと日本古来
の愛唱歌と思いがちですが、さまざまの国の歌
が何らかのきっかけで日本に伝わり、日本人の
心に溶けこみ歌い継がれたものも数多くある事
を知りました。山口保治は豊川出身の有名な童
謡作曲家です。みじかな作品には「かわい魚
屋さん」「ねこふんじゃった」等々数多くあり
ます。今でも地元の小学校、中学校の子供達に
歌い継がれジャージ姿で一牛懸命に歌っている
姿に感動させられます。子供達のCDも発売さ
れています。コラムがきっかけで偶然にも作家
の足跡をたどる事が出来ました。そして古き良
き日本の心を子供達に伝えるきっかけづくり
したいと思えます。ちなみに「鬼のダンス」は
蕨下機能を向上させる曲として歌われています。
次回は、さわらび地域包括支援センター
保健師 松下美津枝さんです。



さわらび会後援会寄附ご芳名

平成21年9月15日～10月14日

市内牧野町90	小松ウメ氏	5,000円
市内野依町字西物草12	家具の街コモクランド	10,000円
市内大舟町21	㈱三恵薬品	20,000円
市内小池町36-1	共和印刷㈱	5,000円
市内山田一番町30-1	協同印刷㈱	5,000円
市内高塚町神田68	田京敏明氏	5,000円
市内中岩田三丁目11-3	白井良治氏	1,000円
市内弥生町字西豊和9-9	林 昭氏	10,000円
市内菅町30	㈱中野新松商店	10,000円
市内瓜郷町前川50-1	鈴木弘生氏	10,000円
市内東新町314	㈱日医工新和	10,000円
市内問屋町15-5	㈱スズケン	10,000円
市内東田町154	㈱竹田商店	10,000円
市内東橋三丁目1-17	森田由利子氏	10,000円
市内白河町100	中部ガス㈱	10,000円
市内神野埴頭町2	神野臨海㈱	10,000円
市内野依町山中19-14	福祉村病院職員有志	3,000円
	匿名希望氏	10,000円
	匿名希望氏	10,000円
	匿名希望氏	20,000円
	匿名希望氏	20,000円
	匿名希望氏	30,000円

その他匿名希望多数の方よりご寄附頂きました。

計 234,000円

現在までにご寄附いただきました金額は
827,776,308円

ご寄付は、さわらび会の病院・施設なら、どこでも受け付けております。皆様の御協力をお願い致します。

みんなの力でみんなの幸せ

社会福祉法人

さわらび会後援会からの
お願い

さわらび会後援会では、広く社会の善意のある方々に後援会員になっていただき、そのあたたかい浄財をもって福祉村の建設並びに運営していくよう支援しております。

皆様方の、ご入会を心からお願ひ申し上げます。

後援会会長 神野信郎

●お問い合わせは 珠藻荘 ☎(0532)47-1050まで

＊お礼コーナー ありがとうございました＊

※印は豊橋善行銀行を通して

▼花王株式会社貢献部様

洗剤 寄贈 (珠藻荘・若菜荘・あかね荘・しるかね・明日香・第二さわらび荘)

▼兼大木グループ様

中古スチール棚寄贈※ (明日香)

▼豆目様

はちみつ寄贈※ (さわらび荘・第二さわらび荘・珠藻荘・若菜荘)

▼匿名様

綿化の種※ (あかね荘)

インド福祉村協会寄附ご芳名

平成21年9月11日～10月10日

名古屋市中区新栄1-7-12	東海労働金庫	3,200円
大阪府岸和田市小松里町947-7	小野剛賢氏	5,000円
大阪府岸和田市宮本町28-22	薬師院 阿字観教室	10,000円
名古屋市昭和区山花町50	医療法人 生寿会 理事長 酒井宏氏	50,000円
豊明市新栄町2-341	加藤伸也氏	5,000円
三重県津市久居二ノ町1833-5	鈴木美佐氏	3,000円
静岡県浜松市西区湖東町1487-5	松下正男氏	3,000円
静岡県浜松市中区高丘北1-65-33	今泉すみ子氏	3,000円
静岡県浜松市三方原町1721-2	袴田トミ子氏	3,000円
兵庫県神戸市東灘区深江南町1-11-1	西川宗明氏	1,000円

募金方法(インド福祉村)

計 86,200円

■振込先 郵便局 ゆうちょ銀行・振替口座

口座番号00830-2-65008 加入者名 インド福祉村協会

■連絡先 軽費老人ホーム若菜荘 ☎0532-48-1138まで

赤い羽根共同募金

さわらび会では病院、各施設の利用者の皆様、職員で募金活動を行い豊橋市社会福祉協議会を通じ共同募金会へ寄付させていただきました。

募金総額 **320,805円**

福祉村保育園だより

福祉村病院と合同の秋祭り・運動会が10月7日に行われました。みこしかつぎ、まどいの舞、そして秋の収穫を祝い野菜や果物を背負って踊る子ども達を笑顔と拍手で囲むおいしいちゃん、おばあちゃん達。「おみこしワッショイ」「ワッショイショイ」と元気な声が空高くこだましました。「白勝て」「青勝て」の応援でおいしいちゃんおばあちゃんといっしょに頑張った玉入れ。「よーいどん」でカー杯走ったがけっこ。最後に理事長先生にごほうびをいただき大喜びの子ども達でした。(宇根底)



●とてもにぎやかな秋祭りになりました。

深まる秋を 感じて

秋陽展

優秀作品 誌上作品展



●手工芸部門 入選

「紙人形」

佐々 あさのさん(若菜荘利用者)



●手工芸部門 入選

「押絵」

吉田 貞子さん(カサデローザ家族)

編集後記

今月号の「さわらび」に福祉作文コンクールの最優秀作品を掲載させて頂きました。この福祉作文コンクールには本当に多くの皆さんが応募頂き本当にありがたうございました。子どもさん達が一生懸命書いた作品を読ませて頂くと普段福祉、医療の仕事をしている私達の気づかない、感性的な視線から原業者、高齢者、福祉ということを考え、また子ども達の優しい気持ちや文面に強くあらわれていて、読ませて頂いたこちらが本当に幸せな気持ちになりました。本来なら応募全作品を「さわらび」に掲載したい思いなのですが残念ながら誌面の都合で今回は最優秀作品のみの掲載とさせて頂きました。その他、優秀作品、入賞作品につきましては近日さわらび会ホームページ(<http://www.sawarabior.jp>)にて掲載させて頂きますので皆さん是非ご覧下さい。(江川)

三表紙作也秋陽展写真部門特選 やすらぎの空間(河合様共 珠蔭社職員)

充実した医療と福祉 みんなの力でみんなの幸せを

社会福祉法人 さわらび会 編集 山本 幸之

- 特別養護老人ホーム さわらび荘
☎(0532)54-3501
法人本部 〇橋市浪ノ上町7-2
- 特別養護老人ホーム 第二さわらび荘
- ケアハウス カサデローザ
☎(0532)37-1209
- 経営老人ホーム 若菜荘
☎(0532)48-1138
- 障害者支援施設 珠蔭荘
☎(0532)47-1050
- 障害者支援施設 あかね社
☎(0532)48-2825
- 福祉村病院
☎(0532)46-7511
- グループホーム白珠
☎(0532)66-0082
- 障がい福祉サービス事業所 明日香
☎(0532)46-6579
- 福祉村障害福祉サービス事業所 しろがね
☎(0532)48-1032
- 福祉コンビニ(東江町)
☎(0532)69-5666
- 第二福祉コンビニ弥生
☎(0532)38-9090
- さわらび会障害者居宅介護事業所 田原
☎(0531)24-0722
- 福祉村老人保健施設 ジュゲム
☎(0532)46-7501
- 田原市障害者生活支援センター(市業A)
☎(0531)45-3828

さわらび

2009年11月1日発行 頁数 第439号 発行日発行
(昭和82年2月21日第三種郵便物認可)
編集責任者 江川和郎 印刷 共和印刷 定価 100円